

第 2790 地区 R L I DL 養成コース記録

2023 年 6 月 1 0 日（土） 千葉市民会館





開講式

司会進行 RLI 推進委員会 青木 洋明 (千葉北 RC)



挨拶

RLI 日本支部第 2790 地区代表委員

第 2790 地区ガバナー 小倉 純夫 (松戸 RC)

皆さん。こんにちは。メルボルン大会というのが5月にありまして、ちょっとわたし、メルボルンに行って、国際大会、本会議のあとに、市内観光で、フィリップ島というところへ、ペンギンを見に行きましてですね、海から上がってくるペンギンを見に行きましてですね、そのときに、夜風が当たるんですね。それがすごい寒かったものですから、そのとき以来ずっと風邪をひいてましてね、ちょっと声を出しにくいのですが、お聞き苦しいところがありましたら、ご容赦願いたいと思います。いよいよ、今日、RLI、DL 養成コースということで、本当にご苦労さまでした。本日ですね、他地区からのですね、郡山南 RC の町田 様、本当に、遠いところ、ご苦労さまでございます。そして、皆とのヨーコ (会場 笑) 千葉港 RC の山本要子さん、本当にご苦労さまです。最後までがんばって頂いて、ありがとうございます。皆さんに敬意を表したいと思います。DL、皆さんここまでやって、こられたということですね、今日の RLI 養成コースの RLI の目的地ということで、「ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立」ということが、掲げられておりまして、皆さんロータリー観を十分に確立できたでしょうか。ここまで来られてですね。そしてセッションの目標として、「語らずして、傾聴する DL の心構え」と。そして、私見てたらですね、「わざと知っていることを、話さないように注意しましょう。」と。DL のですね、心構え。注意点。ですか。 そんなことを。私ですが、ロータリーについて知っていることを、皆さんに、お話したいなと思っているのですが、そういうことがないように、とういことらしいのですね。やっぱり DL としては、ディスカッションリーダー。あつ。それからディスカッションリーダーというのは、名称が変わるんですかね。(会場より 来年から、ファシリテーター) ファシリテーターになるんだそうです。ディスカッションリーダーというのはですね、あとで、ファシリテーションマインドというのですか。こういうことが書いてありますので、是非、これを、よくお読みに頂ければと思います。要するにですね、傾聴して、いくことだと。ということのようです。なかなかですね。人の話を聞くというのは、難しい。簡単なようで難しいと思います。そういう意味で皆さん、ここまで来られてですね、ファシリテーション。



ファシリテーターとして、これから、各自分のクラブに戻られてですね、是非、クラブ内ですね、研修委員会といいますかね、そういうもので、研修リーダーを務めていただくことになるんだと思いますけれども、是非クラブでの、研修会。そしてそのなかでの、研修リーダー。是非、そういうことで、クラブのですね、リーダーとして、お務め頂きたいと思います。本日は、実演をして頂くと。二つのテーマに対して、実演をして頂くと、いうふうに伺っております。きっとですね、初めから、うまく、ディスカッションリーダーですか。ファシリテーターとして、うまく皆さんをリードしていくというのは、なかなか難しいんじゃないのかなと、思うんですけどね。是非、失敗から、学ぶことも多いんじゃないのかなと、思いますので、是非。もし、仮に、「うまく、いかなかったな。」と思ってもですね、それにめげずに、2度目3度目、に挑戦して頂きですね、立派なファシリテーターになって頂きたいなど、思っています。今日も一日ですね、これからまた、長丁場ですので、皆さん最後まで集中して頂いてですね、がんばって頂きたいと思います。そして、最後に、今年度、これ、まだ最後ではないのですが、(会場より まだ補習があるんです。)まだ、補習があるようなのですが、なかなか、皆さんの前で挨拶できるのは、最後かと、思いますので、最後の補習のときには、オンラインで補習をされると、いうふうに聞いております。こういう機会があるのは、最後になりますので、RLIのですね、研修のために皆さん、RLI推進委員会の皆さん大変努力されております。特に、毎回、地区代表ファシリテーターとして参加して頂いた梶原パストガバナーそして周藤RLI推進委員長、そして、清田実行委員長、はじめ、RLIの実行委員会の皆さんには、本当にありがとうございました。本当に熱心に、最後までこういう、頑張ってもらって、実りのある、成果がでていと、でているんだろうと、我が地区において、着々と成果がでていと、思います。本日は最後まで頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願ひ致します。





挨拶

RLI 日本支部第 2790 地区代表 ファシリテーター 梶原 等 (千葉 RC)

皆さん、こんにちは。ちょっと久しぶりに、ですね、先月たしか出られなかったの、皆さんとお会いするのは久しぶりです。代表ファシリテーターの梶原です。今、小倉ガバナーからお話ありましたように、私もメルボルンの国際大会に行ってきました。ペンギンツアーも、ちょうど同じ、時間帯で、一緒に、ガバナーと、寒い中、雨の寒い中、行ってきました。ちょっと、本当は、動画に撮ってはいけないヤツまで私の仲間が撮っていたので、興味がある方は、見せますので、見てください。私は、雨の後、アルコールでしっかり、体を消毒しましたので、強制的に消毒させられましたので、何とか体調は、維持しております。実は、一昨日ですね、第 2820 地区茨城の下館 RC のほうに、ホシザキ電気の坂本会長が卓話に来るといふことで、当地のガバナーに呼ばれて、行きましたが、こちら、第 2790 地区の RLI に大変ご尽力頂いた、第 2770 地区の中村靖治パストガバナーが、お見えになっておまして、少し話をさせていただきました。今度、DL (ディスカッションリーダー) という名前でなくなるという話しのなかでですね、3月に我々の地区は、会長エレクト研修セミナー、いわゆる PETS というのを、やっております。プレジデント・エレクト・トレーニング・セミナー。このトレーニングというのが、なくなるんだというふうな話。なくなるというか、そういう表現ではなくなると。これがファシリテーションになるというふうなですね、そんな話をされておりました。そうすると、PETS という言い方ではなくて、PEFS というか、あるいは、インスチテュートになって、PEFI になるのか、これはわかりませんが、少なくとも、このスクール形式の勉強会というよりは、どちらかという、みんなでディスカッションして、お互いに意見交換をしながらですね、新しいものを創造していくという、ほうに、変わっていくのかなというふうに、思っております。皆様が、クラブを飛び出して、そしてこの RLI に参加をされて、いろんな人たちと交流をもってですね、新しい知識とか、新しい発見、また、奉仕の、新しい奉仕の世界に飛び込もうと、努力をされている方です。是非、クラブのほうにお戻りになって、それを、展開をしていってほしいなと、いうふうに思います。それと国際大会のお話で、今度、小倉ガバナーから鶴沢ガバナーに、代が代わるわけですが、来年はシンガポールで国際大会が開催されます。ガバナーナイトというのが、どこの地区でもやるのですが、今年は、150 人の参加でしたけれども、鶴沢ガバナーエレクトが、会場を 300 人の会場を抑えているそうで、第 2500 地区北海道の東部、第 2500 地区と合同でやると、いうことでございます。私たちの地区からも、150 人ぐらいは、登録して欲しいと、参加してほしいと、いうようなお話ですので、相当数、いかなくてもなりません。皆さん、是非、国際大会行くと、RLI とはまた、違った意味での、ですね、国際観、ロータリー観というのが、実感できるし、体験できると思いますので、是非、来年の国際大会に、その次の次もありますけれども、予定をして頂きたいなと、いうふ

うに思います。ちょっと国際大会の宣伝をしながらですね、挨拶に代えさせていただきます。今日はどうぞ、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。



挨拶 RLI 推進委員長 周藤 行則 (浦安 RC)

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まり頂きまして、誠にありがとうございます。また、今日は遠方からですね、郡山南 RC の町田様、お出で頂きまして、ありがとうございます。町田さんには、おいしいですね、御菓子を頂戴しましてですね、ちょっと、ほっと和んで、甘い気持ちで、楽しくセッションができるのではないかと、思っております。それから、皆様 11 名の受講生の方、リアルで開催、参加頂きました事を、誠にありがとうございます。また、今日は、諸岡パストガバナーにも、お出で頂きまして、良いセッション、良いアドバイスをして頂きたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それからですね、お名前を申し上げませんでした、それぞれの皆様、今日はよろしくお願いいたします。あとは、蛇足なんです、ほんのちょっとだけ。私ですね。5月18日から23日まで、タイに行ってきました。で、それはですね、次年度、ロータリー財団委員長をクラブで任命されてですね、MOUを提出して、タイのカセサート大学というところで、狂犬病の支援ということで出して、承認されたんで、早速下見に行こうということで、行ってきたのですが、タイは、暑くて寒かったです。(会場 笑) 日差しはカンカンで、タクシーはサービスなのか、氷のように寒いんですよ。この温度差でやられてですね、しかも屋台でスイカジュースを食ったら下痢をピーピーしてしましまして (会場 大笑)、で、その下痢ピーの翌日に、高速でタクシーで、1時間半飛ばして、チョンブリー県というところまで行ってですね、そこでカセサード大学のボランティアの学生さんと、教授達と会って、打ち合わせの話をするという事で、手に汗握り、お尻には力が入ったら (会場 大笑) ●●しないように (会場 大笑) ということで、そういう旅をしてまいりました。で、何が言いたいのかというと、そこだけではなくて、やっぱりそういうのができるというのは、RLIで色々なことを勉強させて頂いて、それで、なんかこう、学んだことを外に実践と。「入りて学び、出でて奉仕せよ。」と以前の RI 会長の言葉のようですが、本当にそうだなということ、実感しております。ですから、今日の参加者の皆様も、DL資格を取るの、スタートラインということで、これから、どんどん皆さんのクラブで、さらに発展していけるように、頑張ってください、RLIの効果があつたのかなと、というふうにも思っております。蛇足でした。ということで、今日一日、よろしくお願い致します。



事務連絡 青木 洋明 (千葉北 RC)

榎田さんは、Bのグループに入りますんで、先程、Cと言いましたが、Bに入りますので、よろしくお願いいたします。



「DLとしての心構え」 RLI 実行委員長 清田 浩義 (千葉 RC)

改めて、皆さんこんにちは。今日は、参加、本当にありがとうございます。ついに、ついにと言いますか、今年度最後のプログラムに、今日と24日に開催される補修とですね、これで1年間滞りなく、終ることになります。今日は、御参加頂いている16名の参加の皆さんに、DL養成コース、参加頂いて、DL資格を取って頂く。こういうことになります。私からはですね、15分は、短い時間ですが、お手元に「ファシリテーションマインド」というA4の一枚があります。これを皆さんと読みながらですね、私自身もそうなのですが、先程、小倉ガバナーからも話があった、次年度から、このDL（ディスカッションリーダー）という名称ではなくて、FT（ファシリテーター）という名称に、我々、あるいは実行委員の皆さんの名称が、肩書が変わりますね。私は、そのほうが、解りやすいかなと、そういうふうに思っています。じゃあ、「ファシリテーション」って、何なんだ。という話に、なりますし、そのファシリテーションを司るようになった者が、ファシリテーター。ということになりますので、短い時間ですが、ファシリテーションについて、ここにファシリテーターの役割ということと、その下に求められる技能。ということが書いてありますので、その辺を中心に、皆さんと復習といえますか、イメージ合わせをしていきたいと思っています。

ちょっと読みます。ファシリテーションは、会議やディスカッションの問題を、より分かりやすくするためのプロセスです。ファシリテーターは、ディスカッションを行うチームが効果的に機能し、高い質のアイデア交換ができるようにディスカッションの内容を決定し、導き、監視する中立的な立場の人です。という事が書いてあります。「ファシリテーションは、会議やディスカッションの問題を、より分かりやすくするためのプロセス」と書いてあります。色々な話し、会議があります。今日は、実は、午前中、我々の営業会議だったのですが、だいたい営業会議はですね、売上、いくら上げるんだ。と言って、上司が部下に怒鳴りまくるという感じが、我社もそんな感じですが。それでいいんだろうか。という話しで、あります。まあ、我社としては、ファシリテーションでもファシリテートでもなんでもなくて、パワハラ上司。というだけですが、今日ですね、是非、ファシリテーションなかなか奥が深いと思うのですが、基本的には、会議をするプロセスです。と、書いてあります。例えばですね、今、私がここで、話をしている。と、私の空気感が、良いとか悪いとかではなくて、ありますよね。さっき、梶原さんの話となると、梶原さんの空気感になりますよね。というのが、その会議、そのミーティング、あるいは、ディスカッションに、どういう風を吹かせるか。ということになります。基本的には、意図的に、どういうふうにその会議を、ミーティングを、デザインするか。というふうに、イメージしたほうが、良いと思うんですね。ですから、今日、参加された皆さんが、さっき、小倉さんも仰っていましたが、そんなに最初から上手くはいかないと思いますが、どんな雰囲気になりたいか。ということ、まず、ちょっと考えて頂



く。できるできないは別にして、そういう意図を持って、話し合いを始めるということが、大事だと。というところが、今のところであります。テーマに関して、参加者が関心を示すか。あるいは、彼らが今まで学んだことに固守し維持しようとするかどうかは、参加者がディスカッションリーダーの能力、信頼性、情熱を、理解するかどうかに、因ります。これも、深いですよ。ディスカッションリーダー、今日は、トライアルですから、あまり、気にしなくて良いと思いますが、参加されている皆様は、DLをやっていると、このDLどんなふうに、どんな話をするか。という問題と、どのような気持ちで、参加者である、皆さんに、接しているか。というふうに、変わりますよね。こっち、やっているほうは、別に無視をしているつもりではなくて、参加されている方が、なんとなく、素っ気無い感じだなど、思った瞬間に、そういう風になってしまう。ということですね。ですから、このへんは、良いか悪いか、とかいうことではなくて、そういうふうに。ですから、参加者が、ディスカッションリーダーの能力、信頼性、情熱を理解するかどうかによります。ということですよ。まあ、なかなか上手くはいかないですよ。こんな書いてあっても、上手くはいかないですよ。そういう事だと、というふうに、お考えください。言い換えれば、言葉を伝える人が、その言葉と同じくらい重要なのだと言うことです。まあ、ディスカッションをやっているときに、ファシリテーターが、どういう言葉を発するか。という問題もあるけれども、そこにその人、ファシリテーターその人自身が、この人、私の話しを聞いてくれそうな人だ。と思うのか、どうなのか。というところが、重要だ。ということです。ディスカッションリーダーは、行動を鼓舞し、決意を奮い立たせ、受身の態度の人や、しらけた人を、元気づけることができます。ファシリテーションとは、お手伝いする役割です。こんな風書いてあります。先程、梶原さんも仰っていたように、次年度からですね、研修の有り方が変わるという話ですが、まさに、RLIは、教えるという事ではなくて、参加者自ら、気付く。こういう事が全てだろうと思います。「気付く」というのは、先程周藤委員長の話ではないですが、「あっ。そういう事か。」例えば、RLIでこれだけ、勉強して、自分なりに、「こういう事しました。」という話がきたときに、「あっ。そういう事なのか。」と、いう風にね、自分に「腑に落ちる。」というか、「腹落ちする。」という。そういう感覚だろうと思います。大体ですね、人から一方的に話を聴いていると、自分が「そうだ」と、思う話は、「そうだ、そうだ」と、聞きますが、自分が「そうではない。」と思っている話は、ほとんど聞いていないというのが、だいたい、格好の場だと思います。この、RLIは、そして、ファシリテーションというのは、「対話」と「気付き」というか、何をお互いに「気付き」合うか。ということだと、思います。前回、RLIの日本支部の研修に出たときに、こんなことが、とても僕は印象的で、多様な、思考が響き合う場。今日参加されている方、本当に、お一人お一人、違う人生観、あるいは、ある意味では、違うロータリー観を持っていらっしゃる方が、皆さん参加をされています。その多様な思考が、どうやって響き合うか。そこで響き合わせるのか。なんとなく、シーンとってしまうのかは、ファシリテーターの、



対応次第。こういう事になろうかと、思います。さて、そこに7～8分でですね、そこに「求められる技能」「スキル」とありますが、今日は、技能がどうだ。スキルがどうだということよりも、ですね、冒頭に書かせて頂いたように、私もいつも心がけるようにしていますが、「ファシリテーションマインド」ファシリテーターになったときに、どういう、気持ち、そもそもが気持ちで、いられるか。という話だと思います。参加されている方に対して、尊敬の重いとか、レスペクト、そんな気持ちがあるのか。どうなのか。それから、今は、まさにEDIにつながるのかもしれませんが、「どんなふうに皆さんを、受け入れるのか？」という、そういう、包容力みたいな、話し。それから、そこで、話題になることに対して、お互いに共感しあう、というような、

そういう気持ち、そのマインドが、そもそも、これから、サーっと読みますが、求められるスキル。の前に、大事なのは、自分がそういう気持ちで、その場に立っているかどうか。ということが、とても大事なかと、いうふうに、思いますので、ですから、スキルを学ばね、何かできる。それも、場合によっては、ニトリが先か、たまごが先かの話しではあると思いますが、私は、やはりマインド、がとても大事だと、このマインドというのは、別にRLIをするときだけのマインドではなくて、まさに、ロータリーが、いま目指す、そしてEDIというキーワードのなかで考えていく、符号するような、ふうに、私自身は思います。さて、残り時間で、サーと、スキルについて、皆さんと共有したいと思います。

まず聴くこと。

ファシリテーターは、全ての参加者の発言に耳を傾け、積極的に聞く力を持っていなければならない。

まさに、「聴く」ですね。

質問すること。

ファシリテーターは、巧みに質問ができなければなりません。リーダーは巧みな質問をしながら、導いていきます。

すなわち参加者の関心を高め、発言を促すために、言葉遣いを変え、また、言い回しを変えながら、質問することが必要です。

質問って、質問の仕方によってですね、返ってくる答えは、違います。

ですから、良い球を投げると、良い球がかえってくるし、あまりよくない球、下手な球を投げると、下手な球。下手なというのは、応えになっていないのですが。会話がより絡まるような、回答にならない場合が。問い掛けの難しさというのを、感じますね。

次に、共有する。

ファシリテーターは参加者が、感想や意見を積極的に、述べたいと思えるような、



雰囲気を作り出す必要があります。ここは、さっきのお話のように、参加者が感想や意見を積極的に、述べたいと思えるような、雰囲気。我社の会議のような話しですね。上司がパワハラで迫ると、部下は嘘をついて逃げる。こういう我社の会議であります。ここでは、ファシリテーターが、参加者が自分で話したくなるような雰囲気、どうやったら作れるか。というところです。

次に問題解決に努力すること。問題が提起されたときに、ファシリテーターは否定的な面に、焦点を当てるのではなく、当事者やそのグループ全体が解決策を見いだせるような方向に話し合いを進める必要があります。だいたい、話題になるとですね、ひっかかってくる答え。が、あったりおします。そして話が、予定以外のほうに、どんどん、行ってしまうと、場合によっては、喧嘩っぽくなってしまいうケースも、ときにはあります。そのときに、ファシリテーターは、否定的な面、に焦点を当てるのではなくて、いかにみんなで解決策を出して、出せるような、雰囲気にもっていくかと、ということなんです。これはなかなか、「言うは易し」だと思います。

次に、意見の対立を解消するための努力をすること。参加者の意見が分かれるのを、抑え込むべきではありません。むしろ、これは予想されるべきことであり、建設的に対処すべきです。参加者は多様なバックグラウンドがあり、また様々な意見を持っていることを認識する必要があります。これは、先ほどお話ししたように、これは、いろんな意見の方がいて、むしろそんな、いろんな意見があるということが、とても大事な。という事です。その色んな意見をうまく、積み上げて、そこで、対話の深さをつくっていく。こんなことだろうと、思います。

その次、参加型の討論形式を採用すること。ファシリテーターは、参加者全員が討論に参加できるようにすることです。

そしてその次、他人に寛容であること。ファシリテーターは常にオープン・マインドで、中立の立場を保つべきです。また、参加者の意見や提案を批判すべきではありません。

ファシリテーターのオープン・マインドという事なんですが、なかなか、こんなオープン・マインドで、いるのは難しいかと、思います。ファシリテーター、たぶん参加者の方が、言っていることに対して、必要以上に、賛同するというのは、どうかな、という話しです。「もっともだ。」と思ってもですね、「もっとも。もっとも。」と、ファシリテーター、DLが、そういう扱いをすると、その場は、そういう場になってしまうので、「そうですね。」「そうですね。」と、相槌をうつ。事が必要かもしれません。「そうですか。」というふうに、話題を、平たくしておく。そんな、進め方も大事かもしれません。



あと、二つ。共感すること。ファシリテーターは、様々な視点から、その問題を見つめることが、できる力をもつべきです。難しいですよ。様々な視点から、その問題を見つめる力を持つべきです。いかに、さきに、お話したように、共感するという。

導くこと。ファシリテーターは、参加者の関心を集中させ、議論が本題から外れないように進めなければなりません。

最後に。時間管理をする。ファシリテーターは、すべての項目を均等に網羅しなければなりません。

ということで、実はですね、これはですね、今のテキストの前のテキスト。ピンク色のテキストの、192頁から193頁に書いてあってですね、今度、RLI日本支部では、今皆さんお手持ちのテキストでは、ファシリテーターのスキルに関することが、書いてありませんけれども、新しく、ファシリテーションスキルに関する、テキストが出る。というような話が書いてありました。また、皆さんにお届けできるだろうと、いうように思います。さて、ちょうど時間になりました。これから、実践の場であります。先程、青木さんのほうから、メンバー編成のご案内がありましたけれども、それぞれ皆さん、自分の受け持ちがわかるでしょうか。Aチームのかたは、3階の、第5会議室です。この隣です。Bチームの方は、3階のその隣です。Cチームの方は、4階の、第1会議室です。Dチームが、4階の第2会議室です。そして、それぞれ、そのグループの、グループリーダー、お願いをしております。Aグループについては、周藤さん、お願いします。Bグループについては、狩野さん、よろしくお願いします。Cグループは、青木さん。よろしくお願いします。Dグループは、私の方で、担当させていただきます。ということで、今日は楽しく進めたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。



Aグループの様子



Bグループの様子



Cグループの様子



Dグループの様子



閉講式

養成コース修了書授与

RLI 日本支部第 2790 地区代表ファシリテーター 梶原 等 (千葉 RC)

地区外 第 2530 地区

町田 晃 (郡山南 RC)

第 2790 地区

矢代 秀明 (浦安ベイ RC)・福井 順子 (市川 RC)・

鈴木 勝博 (千葉港 RC)・山本 要子 (千葉港 RC)・

平塚 新兵衛 (佐原 RC)・岩澤 弘 (成田コスモポリタン RC)・

藤崎 政弘 (成田コスモポリタン RC)・村越 孝一 (我孫子 RC)・

依田 勇 (我孫子 RC)・三浦 直哉 (野田 RC)



閉講挨拶

RLI 日本支部第 2790 地区代表ファシリテーター 梶原 等 (千葉 RC)

はい。皆さん、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。あっという間の約 3 時間だったのかなと、いうふうに思います。皆さんディスカッションリーダーの体験はいかがだったでしょうか。回数を重ねれば、慣れてきますし、そんなに緊張することはありません。我々が、最初にこの RLI の最初のセッションに、一番最初に入ったときに、たぶん、ドキドキして、参加をされたと思うんですね。そういう人たちが、来るわけですから、我々、先輩ですから。どんと、構えてですね、やっていければいいかなと思います。それと、自分の考えを、しっかり持っていれば、どんな質問をされようが、それは人に振っていけばいいことですし、あまり難しく考えずに、自分の、知っている範囲のなかで、きちんとファシリテーションをしていければ、だんだんだんだん、広がっていくと思いますので、是非、来年度、鶴澤ガバナー年度、また、9 月、から、養成コースが、始まっていきますんで、是非それに参加して、RLI の輪を広げていって頂ければと、思います。今日は、私、この後の懇親会を大変楽しみにしておりますので、そこでいろいろな、お話をさせて頂ければと、思います。本日は、大変、ありがとうございました。お疲れ様でした。



閉会にあたって RLI 推進委員会 委員長 周藤 行則 (浦安 RC)

皆様、本日は長丁場、大変お疲れ様でございました。私もセッションに参加させて頂いてですね、とっても楽しかったです。皆さんも、それぞれ、それぞれのスタイルで DL をなさっていて、お人柄が、よく出ていてですね、ぐいぐいと話に引き込まれましたしね。皆さん、今日の皆さん、レベルが高くて、どんどん会話が途切れないですね。つい引き込まれて、こうこうこう。と、自分のほうから、発言したりですね、50 分という時間があっという間に、過ぎるよう



な感じで、終わってみると、「もう、終わっちゃった。」というのが、正直な感想です。なかで、私、印象に残ったのは、DLなされた方が、最初は、時間が経つのが遅くて、「どうしようか」と。仰っていましたけどね、それが、そう思っていたけど、会話がどんどんすすんでいったら、「えー。もうこんな時間。」なんていうところで、DLの醍醐味、というんでしょうかね。ここにあるんじゃないかなと、いうふうに思いました。いつまでたっても、やはり勉強で、もう、自分でも、なかなか100点満点のDLをできたことが、恥ずかしながら、ないんですけども、やっぱり刺激を受けて、「あー。こうしよう。」「次は、自分も、こうしよう。」と、「この話の展開はいいね。」というのが楽しみなのかなと。いうふうに、思っています。おかげさまで、私も、皆さんを前にして、マイクを持って、こんなに話ができるようになりました。DLをするということは、やはりロータリーを理解するには、とても、良い道具なんじゃないのかなと、思いますし、一番は、みなさんのお人柄で、ロータリアンとしての経験が、DLをさせてくれると、思っておりますので、次年度ですね、是非、DLとして、RLIを支えて頂きたいと、思います。長丁場、大変、皆様、お疲れ様でした。



諸事連絡 RLI推進委員会 委員 東 孝俊 (千葉RC)

皆さん、お疲れ様です。この後、18時から、懇親会を行いますので、会費が4000円になりますので、現地で徴収させていただきますので、よろしくお願いいたします。ストラップ 後ろで、回収致しますので、よろしくお願いいたします。

記録 DL 養成コース

地区外 第 2530 地区

町田 晃 (郡山南 RC)

第 2790 地区

矢代 秀明 (浦安ベイ RC)・福井 順子 (市川 RC)・

鈴木 勝博 (千葉港 RC)・山本 要子 (千葉港 RC)・平塚 新兵衛 (佐原 RC)・

岩澤 弘 (成田コスモポリタン RC)・藤崎 政弘 (成田コスモポリタン RC)・

村越 孝一 (我孫子 RC)・依田 勇 (我孫子 RC)・三浦 直哉 (野田 RC)

RLI 実行委員

小倉 純夫 (松戸 RC)・諸岡 靖彦 (成田 RC)・周藤 行則 (浦安 RC)・

清田 浩義 (千葉 RC)・狩野 文夫 (船橋 RC)・青木 洋明 (千葉北 RC)・

東 孝俊 (千葉 RC)・大野 雅章 (千葉 RC)・梶原 等 (千葉 RC)・

松本 俊英 (千葉中央 RC)・松岡 邦佳 (木更津東 RC)・小林 信夫 (東金 RC)・

小久保 和子 (八街 RC)・神崎 誠 (成田 RC)・山本 衛 (松戸西 RC)・

櫛田 仁一 (柏西 RC)・

DL養成コース 修了者



町田 晃 (郡山南 RC)



矢代秀明 (浦安ベイ RC)



福井 順子 (市川 RC)



鈴木勝博 (千葉港 RC)



山本 要子 (千葉港 RC)



平塚 新兵衛 (佐原 RC)



岩澤 弘
(成田コスモポリタン RC)



藤崎 政弘
(成田コスモポリタン RC)



村越 孝一 (我孫子 RC)



依田 勇 (我孫子 RC)



三浦 直哉 (野田 RC)